

リリース 9.3.1.1

Oracle® Data Integrator Adapter for Hyperion®
Financial Management™ ユーザーズ・ガイド



Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Management ユーザーズ・ガイド, リリース9.3.1.1

部品番号: E06142-01

2008年5月

原本名: Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Management User's Guide, Release 9.3.1.1

Copyright © 2007, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありません。

このプログラムは、第三者のWebサイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者のWebサイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

1. Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Management の概要.....	3
用途.....	3
統合プロセス.....	3
アダプタの使用.....	4
2. 環境の設定	7
データ・サーバーの定義.....	7
物理スキーマ、論理スキーマおよびコンテキストの定義.....	9
3. Financial Management アプリケーションのリバースエンジニアリング	13
リバースエンジニアリングとは.....	13
Hyperion Financial Management RKM の使用方法	13
4. データおよびメタデータのロードおよび抽出	19
データ統合タスク	19
インタフェースの作成.....	19
メタデータのロード.....	21
IKM SQL to Hyperion Financial Management Dimension.....	22
データのロード.....	22
IKM SQL to Hyperion Financial Management Data.....	23
データの抽出.....	25
LKM Hyperion Financial Management Data to SQL.....	26
メンバー・リストからのメンバーの抽出.....	27
LKM Hyperion Financial Management Members to SQL	28
データストア表.....	28

1

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Managementの 概要

この章の内容

用途.....	3
統合プロセス.....	3
アダプタの使用.....	4

用途

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Managementを使用すると、Oracle Data Integratorを介してHyperion System 9 Financial Managementをあらゆるデータベースと接続および統合することが可能になります。このアダプタは、Financial Managementアプリケーションで、メタデータおよびデータのロードおよび抽出とデータの統合を行うためのOracle Data Integratorナレッジ・モジュール (KM) のセットです。

統合プロセス

注意:

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Managementのインストール手順は、アダプタに同梱されている『Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Management Readme』を参照してください。このReadmeドキュメントは、Oracle E-Deliveryからダウンロードすることもできます。

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Managementを使用すると、Financial Managementアプリケーションに対して次のデータ統合タスクを実行できます。

- メタデータおよびデータのロード
- データの抽出
- データの統合
- メンバー・リストのメンバーの列挙

アダプタを使用したデータのロードまたは抽出は、次のタスクで構成されています。

- 環境の設定: Hyperion Financial Managementテクノロジーのインポートと、データ・サーバーおよびスキーマの定義
詳細は、第2章「環境の設定」を参照してください。
- リバースエンジニアリング・ナレッジ・モジュール (RKM) を使用したFinancial Managementアプリケーションのリバースエンジニアリング

詳細は、第3章「Financial Managementアプリケーションのリバースエンジニア

- リング」を参照してください。
- 統合ナレッジ・モジュール (IKM) を使用したメタデータおよびデータのロード
詳細は、第4章「データおよびメタデータのロードおよび抽出」を参照してください。
- ロード・ナレッジ・モジュール (LKM) を使用したデータおよびメンバーの抽出
詳細は、第4章「データおよびメタデータのロードおよび抽出」を参照してください。

アダプタの使用

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Managementを使用する際、次のOracle Data Integratorの機能を利用します。

- トポロジ・マネージャ: **Financial Management**アプリケーションへの接続を定義するために使用します。
詳細は、第2章「環境の設定」を参照してください。
- デザイナ: 次のタスクのために使用します。
 - データストアへのメタデータおよびデータのロード (このデータストアは、**Financial Management** のディメンションおよびデータ表を表すターゲット表です。)
 - データストアからのデータおよびメンバー・リストの抽出 (このデータストアは、**Financial Management** のデータ表およびメンバー・リスト表を表すソース表です。)

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Managementには、次のデータストアを作成するHyperion Financial Management RKMが組み込まれています。各データストアの詳細は、該当する項目を参照してください。

- 29 ページの「[HFMDData](#)」
- 29 ページの「[HFMDData_MultiplePeriods](#)」
- 30 ページの「[Account](#)」
- 32 ページの「[Entity](#)」
- 32 ページの「[Scenario](#)」
- 33 ページの「[Currency](#)」
- 34 ページの「[Custom1-4](#)」
- 35 ページの「[EnumMembersList](#)」

デザイナで、Hyperion Financial Management RKMを使用してデータストアを作成します。

アダプタには、他にデータのロードおよび抽出のための次のナレッジ・モジュール (KM) が組み込まれています。

- **IKM SQL to Hyperion Financial Management Dimension**: ステージング領域からアプリケーションにメタデータをロードします。詳細は、22ページの「[IKM SQL to Hyperion Financial Management Dimension](#)」および21ページの「[メタデータのロード](#)」を参照してください。

- **IKM SQL to Hyperion Financial Management Data:** ステージング領域からアプリケーションにデータをロードします。詳細は、23ページの「[IKM SQL to Hyperion Financial Management Data](#)」および22ページの「[データのロード](#)」を参照してください。
- **LKM Hyperion Financial Management Data to SQL:** アプリケーションからステージング領域にデータを抽出します。詳細は、26ページの「[LKM Hyperion Financial Management Data to SQL](#)」および25ページの「[データの抽出](#)」を参照してください。
- **LKM Hyperion Financial Management Members to SQL:** アプリケーションのメンバー・リストのメンバーをステージング領域に抽出します。詳細は、28ページの「[LKM Hyperion Financial Management Members to SQL](#)」および27ページの「[メンバー・リストからのメンバーの抽出](#)」を参照してください。

2

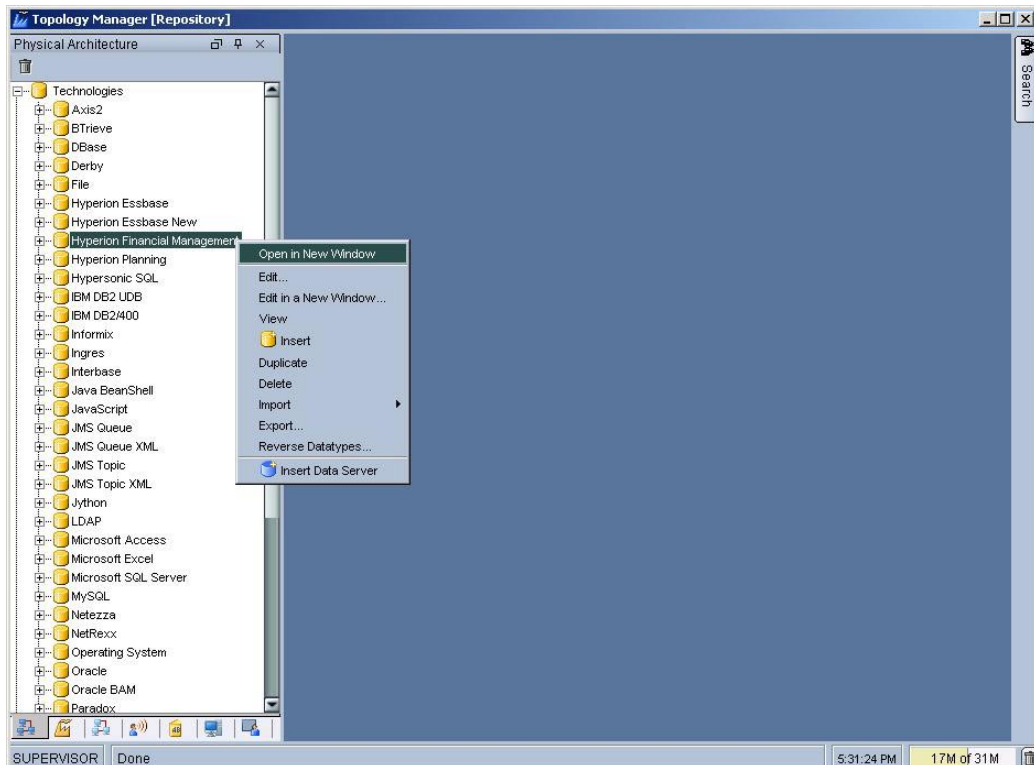
環境の設定

この章の内容

データ・サーバーの定義.....	7
物理スキーマ、論理スキーマおよびコンテキストの定義.....	9

データ・サーバーの定義

- ▶ **Financial Management** サーバーに接続するためのデータ・サーバーを定義するには、次のようにします。
 - 1 トポロジ・マネージャで、「テクノロジー」を開きます。
 - 2 Hyperion Financial Managementを右クリックして「データ・サーバーの挿入」を選択します。



注意:

Hyperion Financial Managementテクノロジーがマスター・リポジトリに定義されていない場合は、「ImpExp」フォルダからインポートできます。

データ・サーバー・ウィンドウが開きます。

The screenshot shows a 'Data Server: New' dialog box with the following fields and values:

- Name: HFMLocal
- Technology: Hyperion Financial Management
- Cluster (Data Server): FINAPPS
- User: admin
- Password: masked with asterisks
- Array Fetch Size: 30
- Batch Update Size: 30

Buttons at the bottom: OK, Cancel, Apply, Help, Test.

3 「定義」タブで、次のようにします。

- a. 「名前」に、データ・サーバー定義の名前を入力します。
- b. 「クラスタ (データ・サーバー)」に、Financial Managementクラスタ名を入力します。
- c. 「接続」に、Financial Managementサーバーに接続するためのユーザー名およびパスワードを入力します。
- d. 「OK」をクリックします。

注意:

Hyperion Financial Managementのデータ・サーバー接続に対して「テスト」ボタンは機能しません。このボタンが機能するのは、JDBCドライバを持つリレーショナル・テクノロジーに対してのみです。

トポロジ・マネージャ・ウィンドウが開きます。詳細は、9ページの「[物理スキーマ、論理スキーマおよびコンテキストの定義](#)」を参照してください。

物理スキーマ、論理スキーマおよびコンテキストの定義

データ・サーバーの下に、アプリケーションに対応する物理スキーマと、モデルのベースとなる論理スキーマを定義します。Oracle Data IntegratorおよびAdapter for Hyperion Financial Managementでの作業は、論理スキーマを使用して行います。コンテキストは、論理スキーマと物理スキーマのリンクに使用します。

- ▶ 物理スキーマを作成するには、次のようにします。
- 1 トポロジ・マネージャで、Hyperion Financial Managementのデータ・サーバーを右クリックし、「物理スキーマの挿入」を選択します。

物理スキーマ・ウィンドウが開きます。

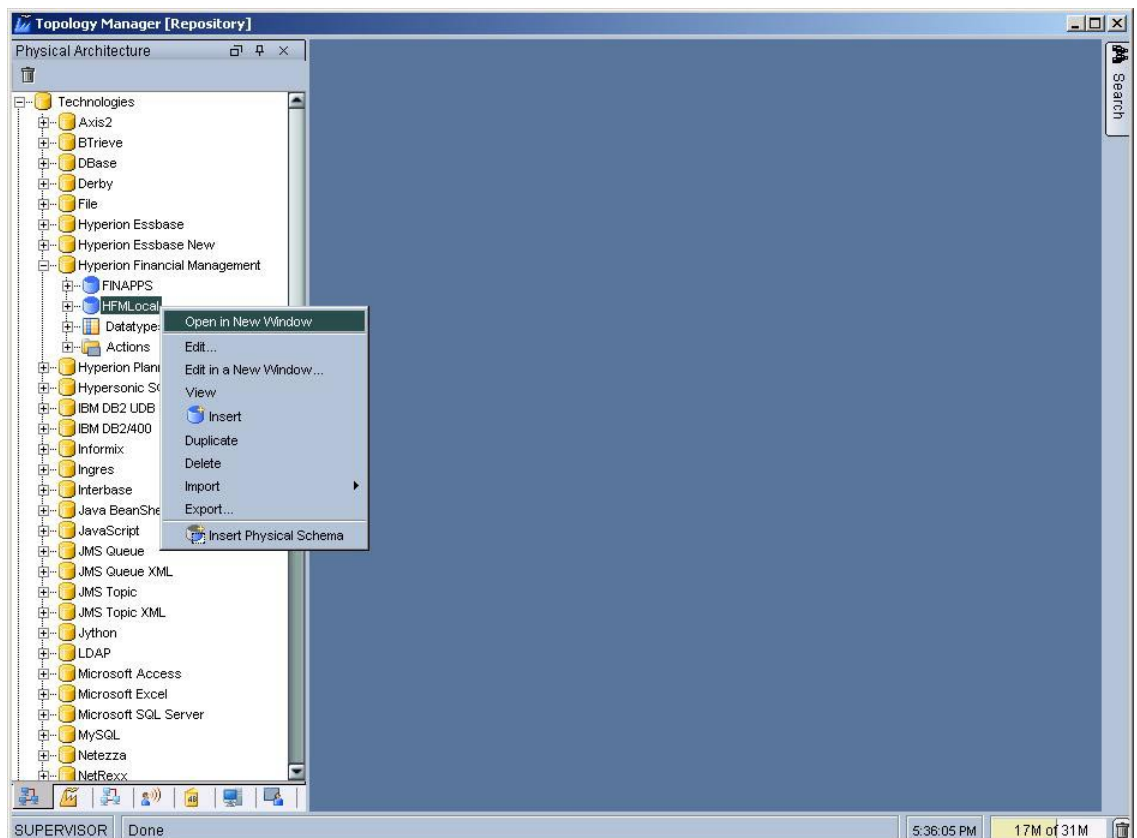
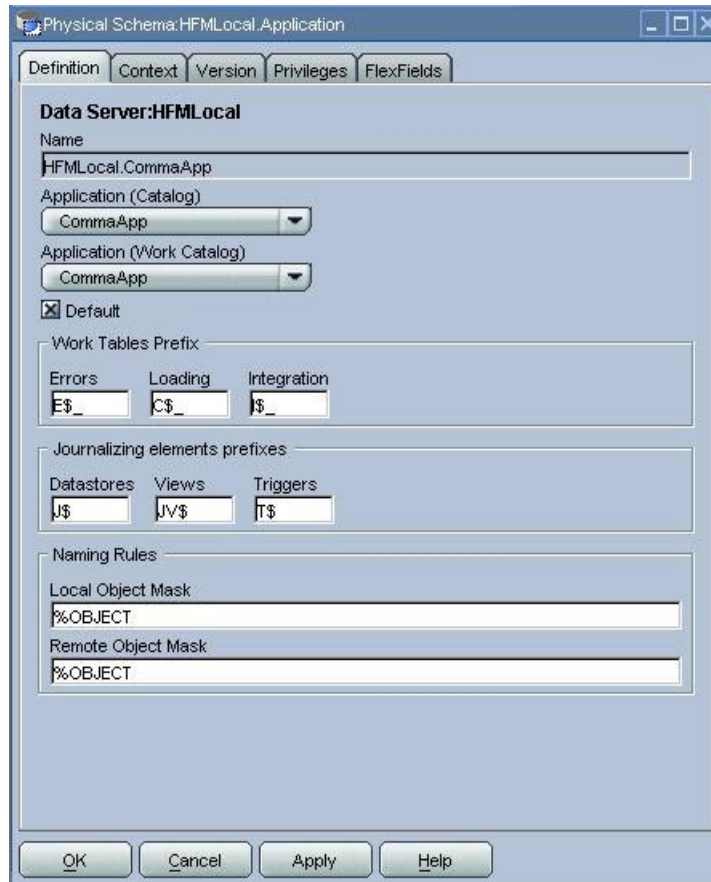


図1 物理スキーマ定義




- 2 「物理スキーマ」の「定義」タブ(図1)で、「アプリケーション (カタログ)」にFinancial Managementアプリケーションを指定します。

図1で指定されたアプリケーションは、CommaAppです。

- ▶ 新しい物理スキーマの論理スキーマおよびコンテキストを指定するには、次のようにします。

- 1 「コンテキスト」タブで、次のようにします。

- Hyperion Financial Managementの論理スキーマが1つ以上存在する場合は、コンテキストおよび論理スキーマを選択します。
- Hyperion Financial Managementの論理スキーマが存在しない場合は、次のようにします。
 - a.  をクリックします。
 - b. 左列からコンテキストを選択します。
 - c. 右列に論理スキーマの名前を入力します。

2 「OK」をクリックします。

選択または作成した論理スキーマが、選択したコンテキストで物理スキーマと関連付けられます。

物理スキーマ、論理スキーマおよびコンテキストの詳細は、『Oracle Data Integrator ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

3

Financial Management アプリケーションの リバースエンジニアリング

この章の内容

リバースエンジニアリングとは.....	13
Hyperion Financial Management RKM の使用方法.....	13

リバースエンジニアリングとは

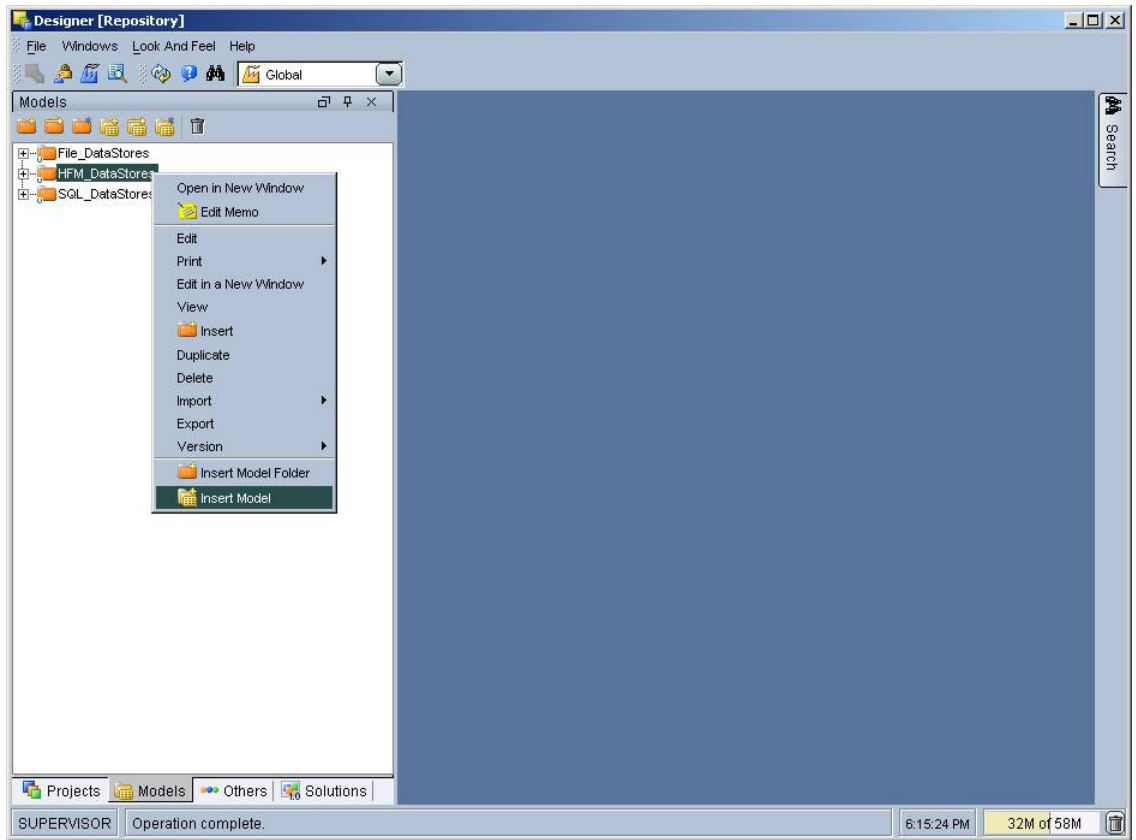
Financial Managementアプリケーションをリバースエンジニアリングすると、Oracle Data Integratorモデルが作成されます。このモデルは、アプリケーションの各ディメンション用のデータストア、データ用のデータストア、複数期間のデータ用のデータストア（オプション）およびEnumMemberListデータストアで構成されます。リバースエンジニアリング、モデルおよびデータストアの詳細は、『Oracle Data Integrator ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

Hyperion Financial Management RKMの使用法

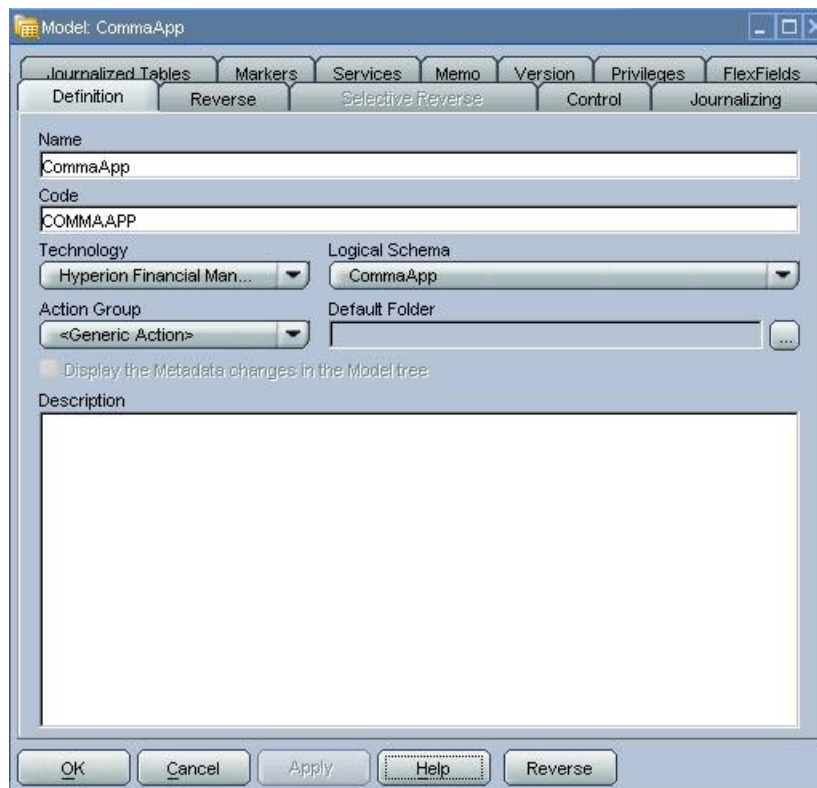
アプリケーションをリバースエンジニアリングするには、Oracle Data Integratorデザイナーを使用します。デザイナーの詳細は、『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- ▶ **Financial Management** アプリケーションをリバースエンジニアリングするには、次のようにします。

- 1 デザイナの左側のペインで、「モデル」→「モデルの挿入」を選択します。

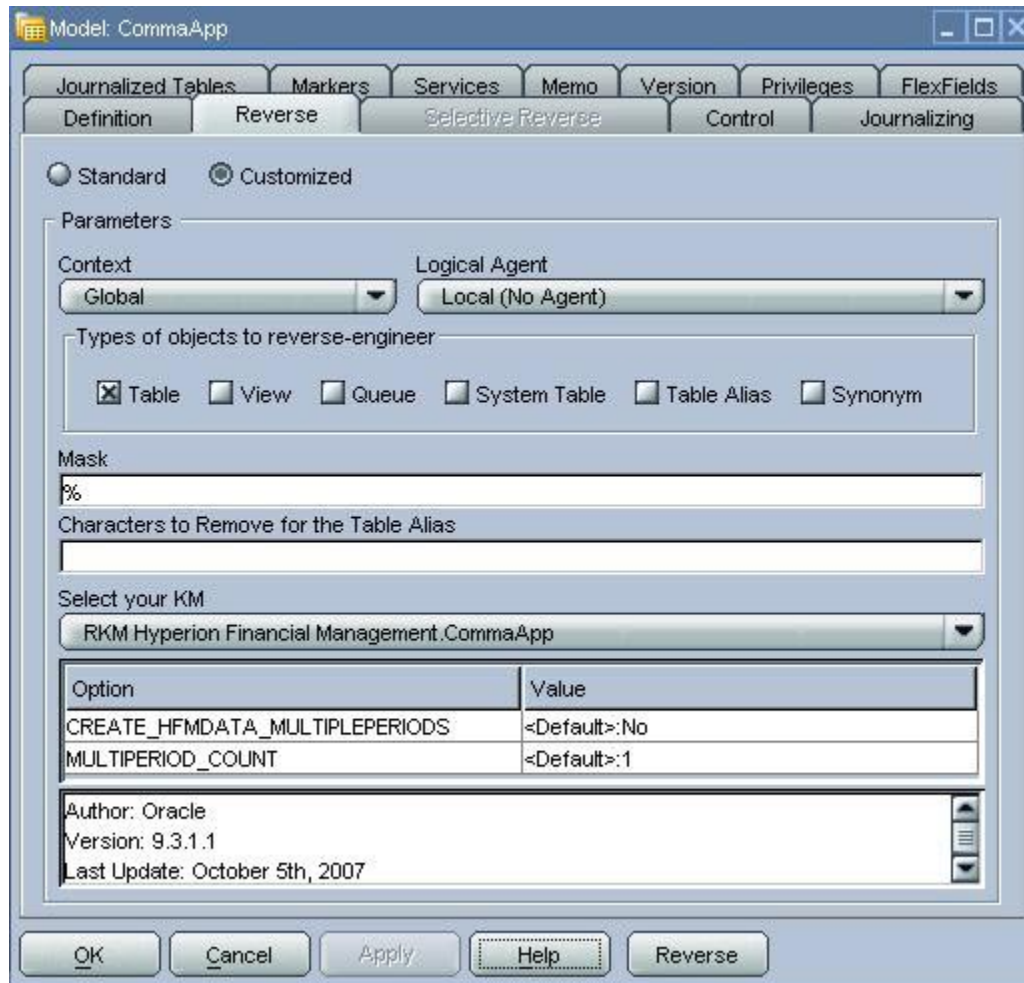


モデル・ウィンドウが開きます。



- 2 「定義」タブで、新しいモデルの名前を入力してHyperion Financial Managementテクノロジーを選択し、モデルのベースとなる論理スキーマを選択します。
- 3 「リバース」タブ(図2)で、次のようにします。
 - a. 「カスタマイズ済」を選択します。
 - b. 「コンテキスト」で、コンテキストを選択します。
 - c. 「KMを選択します」で、Hyperion Financial Management用のRKMを選択します。
 - d. 「オプション」で、次のようにRKMのオプションを選択します。
 - CREATE_HFMDATA_MULTIPLEPERIODS: 有効値はYesまたはNoです。
Yesに設定すると、複数期間のデータ用にデータストアが追加作成されます。そのモデルの期間数は、MULTIPERIOD_COUNTオプションで指定されます。デフォルトはNoです。
 - MULTIPERIOD_COUNT: HFMDATA_MULTIPLEPERIODSデータストアの期間数です。
 - e. 「リバース」をクリックします。

図2 モデル・ウィンドウの「リバース」タブ



4 入力内容の確認を要求されたら、「はい」をクリックします。

RKMが（論理スキーマおよびコンテキストによって特定される）アプリケーションに接続し、アプリケーションのディメンションに応じて、次のデータストアの一部または全部をインポートします。

- HFMDData: データのロードおよび抽出用
- HFMDData_MultiplePeriods: MULTIPERIODS_COUNTオプションで指定された期間数のデータ用

注意:

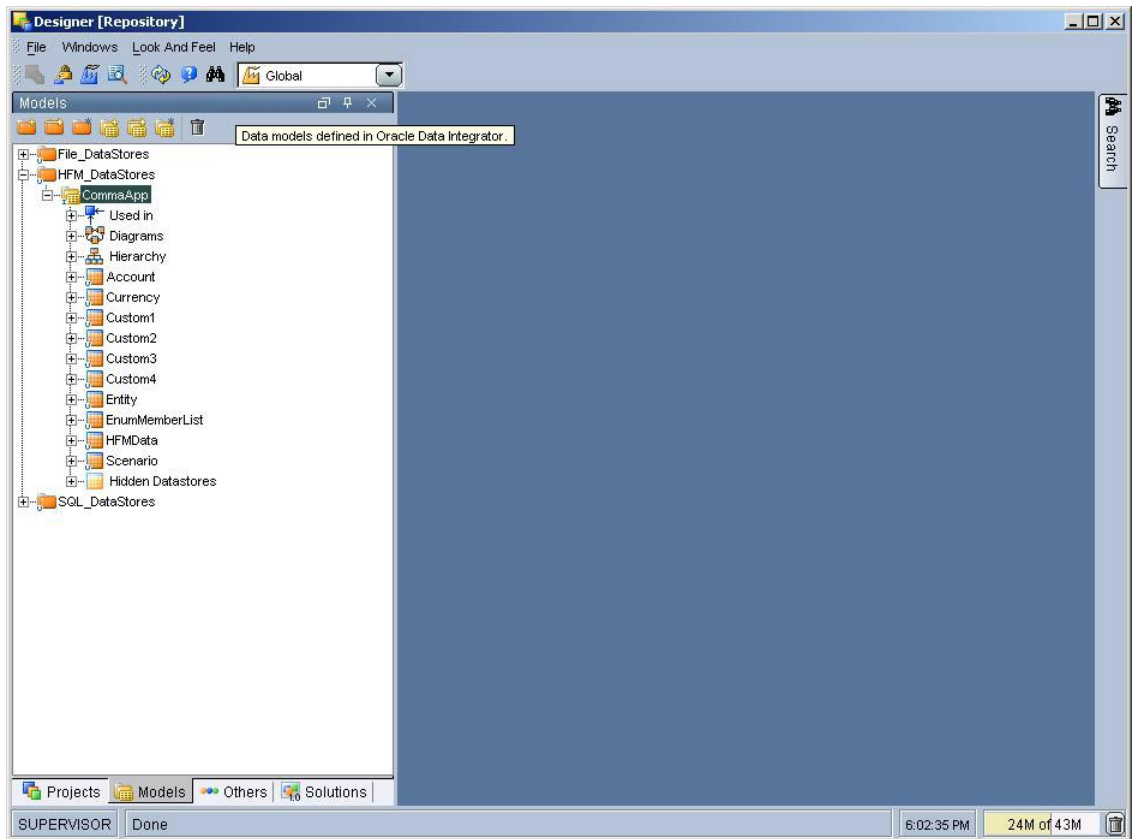
このデータストアがインポートされるのは、モデル定義で CREATE_HFMDATA_MULTIPLEPERIODSオプションがYesに設定されている場合のみです。

- Account: Accountディメンションのロード用
詳細は、30ページの「[Account](#)」を参照してください。
- Entity: Entityディメンションのロード用
詳細は、32ページの「[Entity](#)」を参照してください。

- Scenario: Scenarioディメンションのロード用
詳細は、32ページの「[Scenario](#)」を参照してください。
- Currency: Currencyディメンションのロード用
詳細は、33ページの「[Currency](#)」を参照してください。
- Custom1-4: Custom1-4ディメンションのロード用
詳細は、34ページの「[Custom1-4](#)」を参照してください。
- EnumMembersList: メンバー・リストの抽出用
詳細は、35ページの「[EnumMembersList](#)」を参照してください。

リバースエンジニアリングで発生したエラーは、Oracle Data Integratorオペレータにリスト表示されます。オペレータの詳細は、『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。

次の図に、リバースエンジニアリングが成功した後のモデルを示します。



4

データおよびメタデータの ロードおよび抽出

この章の内容

データ統合タスク	19
インタフェースの作成	19
メタデータのロード	21
IKM SQL to Hyperion Financial Management Dimension	22
データのロード	22
IKM SQL to Hyperion Financial Management Data	23
データの抽出	25
LKM Hyperion Financial Management Data to SQL	26
メンバー・リストからのメンバーの抽出	27
LKM Hyperion Financial Management Members to SQL	28
データストア表	28

データ統合タスク

Oracle Data Integratorでは、Financial Managementアプリケーションのメタデータまたはデータのロードまたは抽出は、次のタスクで構成されています。

- データおよびメタデータをロードおよび抽出するためのインタフェースの作成
- (オプション) 1プロセスで複数のインタフェースを実行できるようにするための、インタフェースのパッケージへのチェーン化
- インタフェースの使用

詳細は、19ページの「[インタフェースの作成](#)」を参照してください。

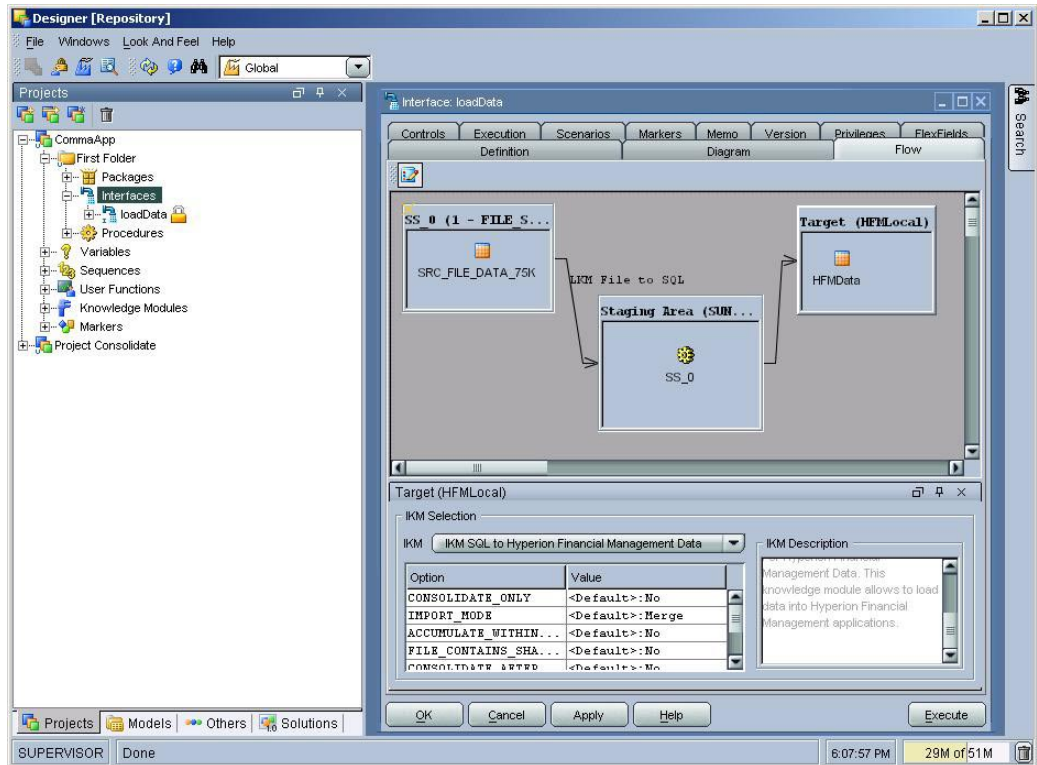
インタフェースの作成およびパッケージへのチェーン化の手順は、『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。

インタフェースの作成

Financial Managementアプリケーションをモデルとしてリバースエンジニアリングすると、次の方法でこのモデルのデータストアを使用できます。

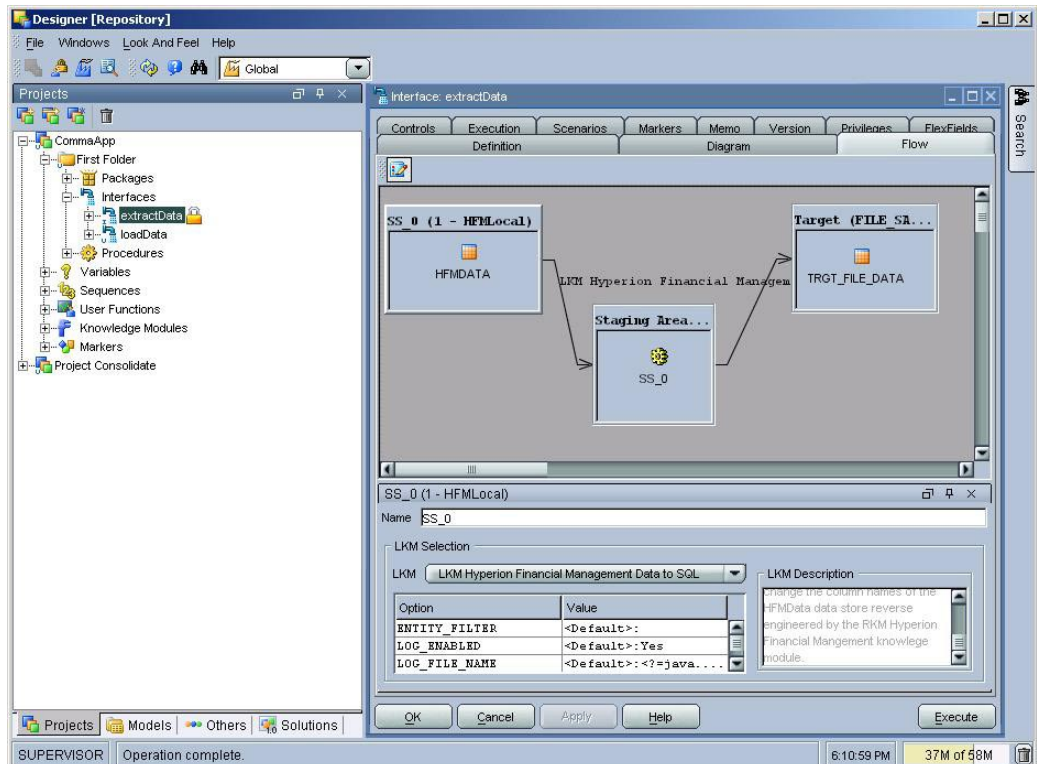
- データおよびメタデータをアプリケーションにロードするためのインタフェースのターゲットとして使用

次の図に、Financial Managementをターゲットとしたインタフェースのフローを示します。



- データおよびメンバー・リストをアプリケーションから抽出するためのインタフェースのソースとして使用

次の図に、Financial Managementをソースとしたインタフェースのフローを示します。



メタデータのロード

メタデータは、ディメンション・メンバーから構成されています。メンバー（メタデータ）は、メンバーのデータ値をロードする前にロードする必要があります。

メンバーをロードできるのは、既存のFinancial Managementディメンションに対してのみです。ロードするディメンションごとに別個のインタフェースを使用する必要があります。インタフェースをチェーン化すると、一度に複数のディメンションにメタデータをロードできます。

▶ **Financial Management** アプリケーションにメタデータをロードするには、次のようにします。

1 **メタデータをロードするためのインタフェースを作成します。**

インタフェースには任意の名前を付けることができます。詳細は、『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。

2 **ダイアグラムで、ターゲットのディメンションのデータストアをHyperion Financial Managementモデルからドラッグします。**

3 **ソースのデータストアを定義します。**

4 **ソースとターゲットのデータ間にマッピングを定義します。**

5 **「フロー」タブで、次のようにします。**

a. 「IKM SQL to Hyperion Financial Management Dimension」が選択されていることを確認します。

b. **ロード・オプション**を指定します。詳細は、22ページの「[IKM SQL to Hyperion Financial Management Dimension](#)」を参照してください。

6 **「実行」をクリックします。**

メタデータがアプリケーションにロードされます。

7 **オペレータ**をチェックし、インタフェースが正常に実行されたことを確認します。

IKM SQL to Hyperion Financial Management Dimension

IKM SQL to Hyperion Financial Management Dimensionは、アダプタがFinancial Managementアプリケーションにメタデータをどのようにロードするかを定義するための、次のオプションをサポートします。

- REPLACE_MODE

有効値: YesまたはNo (デフォルト)

Yesに設定すると、アプリケーションのメタデータは置き換えられます (置換)。Noに設定すると、アプリケーションのメタデータは上書きされます (マージ)。

- CLEAR_ALL_METADATA_BEFORE_LOADING

有効値: YesまたはNo (デフォルト)

Yesに設定すると、すべてのメタデータはロード前に消去されます。

注意

このオプションをYesに設定すると、アプリケーションのアクティブなデータまたはジャーナルはすべて失われます。

- LOG_ENABLED

有効値: YesまたはNo (デフォルト)

Yesに設定すると、ロード・プロセス中にLOG_FILE_NAMEオプションで指定されたファイルへのロギングが行われます。

- LOG_FILE_NAME

ログが保存されるファイルの名前です。デフォルトはJava temp folder/dimension.logです。

データのロード

データは、選択したディメンション・メンバー (Financial Managementですでに作成済) にロードできます。データをロードするには、Financial Managementアプリケーションを設定しておく必要があります。

データのロード前に、メンバー (メタデータ) がFinancial Managementリレーショナル・データベースに存在することを確認します。メンバーが存在しない場合、データ・ロードは失敗します。

- ▶ **Financial Management** アプリケーションにデータをロードするには、次のようにします。
- 1 データをロードするためのインターフェースを作成します。

インターフェースには任意の名前を付けることができます。詳細は、『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- 2 ダイアグラムで、ターゲットのデータストア(HFMDataまたはHFMData_MultiplePeriods)をHyperion Financial Managementモデルからドラッグ・アンド・ドロップします。
- 3 ソースのデータストアを定義します。
- 4 ソースとターゲットのデータ間にマッピングを定義します。
- 5 「フロー」タブで、次のようにします。
 - a. 「IKM SQL to Hyperion Financial Management Data」が選択されていることを確認します。
 - b. ロード・オプションを指定します。詳細は、23ページの「[IKM SQL to Hyperion Financial Management Data](#)」を参照してください。
- 6 「実行」をクリックします。

データがアプリケーションにロードされます。
- 7 オペレータをチェックし、インターフェースが正常に実行されたことを確認します。

IKM SQL to Hyperion Financial Management Data

IKM SQL to Hyperion Financial Management Dataは、アダプタがFinancial Managementアプリケーションでデータをどのようにロードおよび統合するかを定義するための、次のオプションをサポートします。

- **IMPORT_MODE**

データ・ロード時に、アプリケーション・セル内のデータを処理する方法を決定します。有効値は、次のとおりです。

- **Merge** (デフォルト) : ロード・データおよびアプリケーションに存在する一意の視点ごとに、ロード・データによってアプリケーションのデータが上書きされます。ロード・データに存在し、アプリケーションには存在しない一意の視点ごとに、ロード・データがアプリケーションにロードされます。
- **Replace**: ロード・データの一意の視点ごとに、対応する値がアプリケーションから消去された後、データがロードされます。

注意:

接続ユーザーがすべての指定セルに対して完全なアクセス権を持っていない場合、データは変更されません。

- **Replace by Security:** ユーザーが完全なアクセス権を持っているロード・データの一意の視点ごとに、対応する値がアプリケーションから消去された後、データがロードされます。ユーザーが完全なアクセス権を持っていないセルは無視されます。
- **Accumulate:** ロード・データおよびアプリケーションに存在する一意の視点ごとに、ロード・データの値がアプリケーションの値に合算されます。

- **ACCUMULATE_WITHIN_FILE**

有効値: YesまたはNo (デフォルト)

Yesに設定すると、アプリケーションへのロード前に、ロード・データの同じセルに対する複数の値が合算されます。

- **FILE_CONTAINS_SHARE_DATA**

有効値: YesまたはNo (デフォルト)

ロード・ファイルに所有権データ (所有される共有など) が含まれる場合は、Yesに設定します。

注意

所有権データがファイルに含まれる場合に、このオプションをNoに設定すると、ファイルのロード時にエラーが発生します。

- **CONSOLIDATE_AFTER_LOAD**

有効値: YesまたはNo (デフォルト)

Yesに設定すると、データはロード後に統合されます。

- **CONSOLIDATE_ONLY**

有効値: YesまたはNo

Yesに設定すると、データは統合されますが、ロードされません。

- **CONSOLIDATE_PARAMETERS:** 統合用のパラメータを、Scenario (必須)、Year、Period、Parent.Entity、Typeの順に、カンマ区切りの値として指定します。デフォルトは空の文字列です。

有効なTypeパラメータの設定は次のとおりです。

- "I" = 統合
- "D" = すべてをデータとともに統合
- "A" = すべて統合
- "C" = 拠出額を計算
- "F" = 拠出額を強制計算

例: Actual,1999,2,EastRegion.EastSales,A

- LOG_ENABLED

有効値: YesまたはNo (デフォルト)

Yesに設定すると、ロード・プロセス中にLOG_FILE_NAMEオプションで指定されたファイルへのロギングが行われます。

- LOG_FILE_NAME

ログが保存されるファイルの名前です。デフォルトはJava temp folder/
HFMDData.logまたはHFMDData_MultiplePeriod.logです。

データの抽出

Financial Managementに存在する、選択したディメンション・メンバーのデータを抽出できます。データを抽出するには、Financial Managementアプリケーションを設定しておく必要があります。

データの抽出前に、メンバー (メタデータ) がFinancial Managementリレーショナル・データベースに存在することを確認します。存在しないメンバー (ドライバ・メンバーおよび視点に指定されたメンバーを含む) について、レコードは抽出されません。

- ▶ Oracle Data Integrator で Financial Management アプリケーションからデータを抽出するには、次のようにします。
 - 1 データを抽出するためのインタフェースを作成します。

インタフェースには任意の名前を付けることができます。インタフェースの作成手順は、『Oracle Data Integratorユーザズ・ガイド』を参照してください。
 - 2 ダイアグラムで、ソースのデータストア (HFMDData) をHyperion Financial Managementモデルからドラッグ・アンド・ドロップします。
 - 3 ターゲットのデータストアを定義します。
 - 4 ソースとターゲットのデータ間にマッピングを定義します。
 - 5 「フロー」タブで、次のようにします。
 - a. 「LKM Hyperion Financial Management Data to SQL」が選択されていることを確認します。
 - b. 抽出オプションを指定します。

詳細は、30ページの「LKM Hyperion Financial Management Data to SQL」を参照してください。
 - 6 「実行」をクリックします。

データがアプリケーションから抽出されます。
 - 7 オペレータをチェックし、インタフェースが正常に実行されたことを確認します。

LKM Hyperion Financial Management Data to SQL

LKM Hyperion Financial Management Data to SQLは、Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Managementがデータをどのように抽出するかを定義するための、次のオプションをサポートします。

- **SCENARIO_FILTER:** データをエクスポートするScenarioディメンション・メンバー

カンマ区切りのシナリオ・メンバーまたは1つのシナリオを指定できます。シナリオを指定しないと、すべてのシナリオについてデータがエクスポートされます。
- **YEAR_FILTER:** データをエクスポートするYearディメンション・メンバー

カンマ区切りの年または1つの年を指定できます。年を指定しないと、すべての年についてデータがエクスポートされます。
- **PERIOD_FILTER:** データをエクスポートするPeriodディメンション・メンバーのセット

1~12のように、期間の開始番号と終了番号の間に~文字を使用してメンバーの範囲を指定します。期間を指定しないと、最初の期間についてのみデータがエクスポートされます。
- **ENTITY_FILTER:** データをエクスポートするEntityディメンション・メンバー

カンマ区切りのエンティティまたは1つのエンティティを指定できます。親および子を指定するには、I.Connecticutのように親と子をピリオドで区切ります。エンティティを指定しないと、すべてのエンティティについてデータがエクスポートされます。
- **ACCOUNT_FILTER:** データをエクスポートするAccountディメンション・メンバー

カンマ区切りの勘定科目または1つの勘定科目を指定できます。勘定科目を指定しないと、すべての勘定科目についてデータがエクスポートされます。
- **VIEW_FILTER:** データをエクスポートするViewディメンション・メンバー

指定可能な値: Periodic、YTDまたは<Scenario_View> (デフォルト)
- **LOG_ENABLED**

Yesに設定すると、抽出プロセス中にLOG_FILE_NAMEで指定されたファイルへのロギングが行われます。
- **LOG_FILE_NAME**

ログが保存されるファイルの名前です。
- **DELETE_TEMPORARY_OBJECTS**

Yes (デフォルト) に設定すると、統合後に表、ファイルおよびスクリプトが削除されます。

ヒント:

一時オブジェクトは、問題の解決に役立つことがあります。

メンバー・リストからのメンバーの抽出

Financial Managementアプリケーションの、選択したメンバー・リストおよびディメンションからメンバーを抽出できます。ディメンションのメンバー・リストからメンバーを抽出するには、Financial Managementアプリケーションを設定し、メンバー・リストをロードしておく必要があります。

ディメンションのメンバー・リストからメンバーを抽出する前に、メンバー・リストおよびディメンションがFinancial Managementリレーショナル・データベースに存在することを確認します。最上位メンバーがディメンションに存在しない場合、レコードは抽出されません。

- ▶ Oracle Data Integrator で Financial Management アプリケーションのメンバー・リストからメンバーを抽出するには、次のようにします。

- 1 メンバー・リストを抽出するためのインタフェースを作成します。

インタフェースには任意の名前を付けることができます。手順は、『Oracle Data Integrator ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- 2 ダイアグラムで、ソースのデータストア (EnumMembersList) を Hyperion Financial Management モデルからドラッグ・アンド・ドロップします。

- 3 ターゲットのデータストアを定義します。

- 4 ソースとターゲットのデータ間にマッピングを定義します。

- 5 「フロー」タブで、次のようにします。

- a. 「LKM Hyperion Financial Management Members to SQL」が選択されていることを確認します。
- b. 抽出オプションを指定します。

詳細は、28ページの「[LKM Hyperion Financial Management Members to SQL](#)」を参照してください。

- 6 「実行」をクリックします。

メンバー・リストがアプリケーションから抽出されます。

- 7 オペレータをチェックし、インタフェースが正常に実行されたことを確認します。

LKM Hyperion Financial Management Members to SQL

LKM Hyperion Financial Management Members to SQLは、Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Financial Managementがメンバー・リストのメンバーをどのように抽出するかを定義するための、次のオプションをサポートします。

- DIMENSION_NAME: メンバー・リストを作成するディメンションの名前(必須)
- MEMBER_LIST_NAME: メンバー・リストのラベル (必須)
- TOP_MEMBER: メンバー・リストの最上位メンバー
- LOG_ENABLED

有効値: YesまたはNo (デフォルト)

Yesに設定すると、抽出プロセス中にLOG_FILE_NAMEオプションで指定されたファイルへのロギングが行われます。

- LOG_FILE_NAME

ログが保存されるファイルの名前です。

- DELETE_TEMPORARY_OBJECTS

Yes (デフォルト) に設定すると、統合後に表、ファイルおよびスクリプトが削除されます。

ヒント:

一時オブジェクトは、問題の解決に役立つことがあります。

データストア表

IKM SQL to Hyperion Financial Managementは、表の列をロードしてデータストアを作成します。次の各項では、各データストアの列について説明します。

注意:

次の各項では、列の説明に指定がないかぎり、列型はStringです。

HFMDData

列	説明
Scenario	Scenarioディメンション・メンバー。例: Actual
Year	Yearディメンション・メンバー。例: 2000
Entity	parent.child形式のEntityディメンション・メンバー。 例: United States.NewYork (メンバーNewYorkをメンバーUnited Statesの子として指定する場合)
Account	Accountディメンション・メンバー。例: Sales
Value	Valueディメンション・メンバー。例: USD
ICP	Intercompany Partnerディメンション・メンバー。例: [ICP Entities]
Custom1	Custom1ディメンション・メンバー。例: AllCustomers
Custom2	Custom2ディメンション・メンバー。
Custom3	Custom3ディメンション・メンバー。
Custom4	Custom4ディメンション・メンバー。
Period	Periodディメンション・メンバー。
Data Value	共通部分に関連付けられた値 この値は、Doubleとして渡されます。
Description	データ値の説明。

注意:

カスタム・ディメンションに別名が付いている場合、その別名が (CustomNではなく) 列名として表示されます。

HFMDData_MultiplePeriods

列	説明
Scenario	Scenarioディメンション・メンバー。例: Actual
Year	Yearディメンション・メンバー。例: 2000
Entity	parent.child形式のEntityディメンション・メンバー。 例: United States.NewYork (メンバーNewYorkをメンバーUnited Statesの子として指定する場合)
Account	Accountディメンション・メンバー。例: Sales
Value	Valueディメンション・メンバー。例: USD
ICP	Intercompany Partnerディメンション・メンバー。例: [ICP Entities]
Custom1	Custom1ディメンション・メンバー。例: AllCustomers
Custom2	Custom2ディメンション・メンバー。
Custom3	Custom3ディメンション・メンバー。

列	説明
Custom4	Custom4ディメンション・メンバー。
Period1～n	ロードされるデータ値ごとに、期間を指定する必要があります。共通部分ごとにロードされる期間数は、Hyperion Financial Managementモデルのリバース時に指定されます。期間の列は、指定された期間ごとに1つ作成されます。
Data Value1～n	ロードされるデータ値。 共通部分ごとにロードされる期間数は、Hyperion Financial Managementモデルのリバース時に指定されます。データ値の列は、指定された期間ごとに1つ作成されます。この値は、Doubleとして渡されます。
Description1～n	各データ値の説明。

注意:

カスタム・ディメンションに別名が付いている場合、その別名が（CustomNではなく）列名として表示されます。

Account

列	説明
Member	勘定科目のラベル（必須）。
Description	勘定科目の説明（必須）。
Parent Member	親勘定科目メンバー。
Account Type（必須）	有効な勘定科目タイプ: <ul style="list-style-type: none"> • ASSET • LIABILITY • REVENUE • EXPENSE • FLOW • BALANCE • BALANCERECURRING • CURRENCYRATE • GROUPLABEL • DYNAMIC
Is Calculated	勘定科目が計算されるかどうか。 有効値: Y（勘定科目が計算される場合）またはN（デフォルト、計算されず手入力できる場合）
Is Consolidated	勘定科目が親勘定科目に統合されるかどうか。 有効値: Y（勘定科目が親に統合される場合）またはN（デフォルト、統合されない場合）

列	説明
Is ICP	<p>この勘定科目について内部取引が許可されるかどうか。有効値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Y: ICP取引（セルフICP取引を含む）が許可される場合 N（デフォルト）: ICP取引が禁止される場合 R: ICP取引は許可されるが、勘定科目自体はICP取引を保持できない場合 <p>YまたはRを指定した場合は、ICP TopMemberの名前を入力します。最上位メンバーを入力しない場合は、デフォルトの[ICP TOP]が使用されます。</p>
Plug Account	<p>内部取引における矛盾点の特定に使用される勘定科目の名前。この勘定科目について内部取引が許可される場合は、必須です。</p>
Custom 1~4 TopMember	<p>勘定科目に対して有効な、Customディメンションの階層における最上位メンバー。</p> <p>指定されたメンバー（その親および子をすべて含む）は、勘定科目に対して有効です。Customディメンションの他のすべてのメンバーは、勘定科目に対して無効です。これらの列は、この勘定科目について内部取引が許可される場合は、必須です。</p>
Number of Decimal Places	<p>勘定科目の値について、小数点の右側に表示する桁数（必須）。</p> <p>0（デフォルト）~9の整数を指定します。</p>
Uses Line Items	<p>勘定科目が明細項目を保持できるかどうか。</p> <p>有効値: Y（勘定科目で明細項目を使用する場合）またはN（デフォルト、使用しない場合）</p>
Aggr Custom 1~4	<p>勘定科目およびCustomディメンションの共通部分について、集計が可能かどうか。</p> <p>この列は、合計ではなく、特別な総計に使用されます。</p> <p>有効値: Y（デフォルト、勘定科目でCustomディメンションを使用した集計を許可される場合）またはN（集計を禁止される場合）</p>
User Defined 1~3	<p>勘定科目に対するカスタム・テキスト（オプション）。</p>
XBRL Tag	<p>勘定科目に対するXBRLタグ（オプション）。</p>
Security Class	<p>勘定科目データにアクセスできるユーザーを定義するセキュリティ・クラスの名前。デフォルト: DEFAULTセキュリティ・クラス</p>
ICP Top Member	<p>勘定科目に割り当てられるICPグループの最上位メンバー。</p>
Enable Data Audit	<p>勘定科目についてデータ監査が有効かどうか。</p> <p>有効値: Y（デフォルト、監査を有効にする場合）またはN（監査を無効にする場合）</p>
Description 2~10	<p>勘定科目の追加説明（オプション）。</p>

Entity

列	説明
Member	エンティティのラベル (必須)
Description	エンティティの説明 (必須)
Parent Member	親エンティティ・メンバー
Default Currency	エンティティのデフォルト通貨 (必須)
Allow Adj	有効値: Y (ジャーナルの転記が許可される場合) または N (デフォルト、仕訳の記入が禁止される場合)
Is ICP	有効値: Y (エンティティが内部エンティティである場合) または N (デフォルト、内部エンティティでない場合) 注意: 内部エンティティは、ICPディメンションの[ICP Entities]の下でPOVIに表示されます。
Allow Adj From Child	有効値: Y (この親エンティティの子からのジャーナルの転記が許可される場合) または N (デフォルト、禁止される場合)
Security Class	エンティティのデータにアクセスできるユーザーを定義するセキュリティ・クラスの名前 デフォルト: DEFAULTセキュリティ・クラス
User Defined 1~3	エンティティに対するカスタム・テキスト (オプション)
Holding Company	エンティティの親会社 有効値: 有効なエンティティまたは空白 (デフォルト)
Description 2~10	エンティティの追加説明 (オプション)

Scenario

列	説明
Member	シナリオのラベル (必須)
Description	シナリオの説明 (必須)
Parent Member	親のScenarioメンバー
Default Frequency	データ入力シナリオに対して有効な期間のタイプ (必須)
Default View	ビューがYTDかPeriodicか (必須)
Zero View Non Adj	欠落した未調整のデータ値が存在する場合に、ビューがYTDかPeriodicか (必須)
Zero View Adj	欠落した調整済のデータ値が存在する場合に、ビューがYTDかPeriodicか (必須)
Consol YTD	統合用のビュー (必須) 有効値: Y (YTDの場合)、または N (Periodicの場合)

列	説明
Support PM	データ・エクスプローラでプロセス管理コマンドを使用可能かどうか（必須） 有効値: Y（プロセス管理を使用可能にする場合）またはN（プロセス管理を使用不可にする場合）
Security Class	シナリオ・データにアクセスできるユーザーを定義するセキュリティ・クラスの名前 デフォルト: DEFAULTセキュリティ・クラス
Maximum Review Level	シナリオに対するプロセス管理の最大確認レベル。1～10の整数を入力します。
Uses Line Items	有効値: Y（シナリオで明細項目を使用できる場合）またはN（デフォルト、使用できない場合）
Enable Data Audit	有効値: Y（監査を有効にする場合）またはN（デフォルト、監査を無効にする場合）
Def Freq For IC Trans	内部取引のデフォルトの頻度 アプリケーションに対して有効な頻度を指定する文字列を入力します。デフォルト値は、空の文字列です。これは、デフォルトの頻度がないことを表します。
User Defined 1～3	シナリオに対するカスタム・テキスト（オプション）
Description 2～10	シナリオの追加説明（オプション）

Currency

列	説明
Member	通貨のラベル（必須）。
Description	通貨の説明（必須）。
Scale	通貨について、表示および格納する金額の単位であり、小数点の位置を指定します（必須）。 次の有効な整数値のいずれかである必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 空白 = なし • 0 = 1の位 • 1 = 10の位 • 2 = 100の位 • 3 = 1,000の位 • 4 = 10,000の位 • 5 = 100,000の位 • 6 = 1,000,000の位 • 7 = 10,000,000の位 • 8 = 100,000,000の位 • 9 = 1,000,000,000の位

列	説明
Translation Operator	通貨換算の計算方法が、換算レートの乗算によるか除算によるか。 有効値: D (デフォルト、除算の場合) または M (乗算の場合)
Description 2~10	追加説明 (オプション)。

Custom1-4

列	説明
Member	カスタム・ディメンション・メンバーのラベル (必須)。
Description	カスタム・ディメンション・メンバーの説明 (必須)。
Parent Member	親カスタム・メンバー (必須)。
Is Calculated	基本レベルのカスタム勘定科目が計算されるかどうか。 基本レベルのカスタム勘定科目が計算される場合は、値を手入力できません。 有効値: Y (勘定科目が計算される場合) または N (計算されない場合)
Switch Sign	FLOWアカウントについて、次のルールに従って符号 (借方/貸方) が変わるかどうか。 <ul style="list-style-type: none"> • ASSETからLIABILITYへ • LIABILITYからASSETへ • EXPENSEからREVENUEへ • REVENUEからEXPENSEへ • BALANCEからFLOWへ • FLOWからBALANCEへ 有効値: Y (勘定科目タイプが切り替る場合) または N (切り替らない場合)
Switch Type	FLOW勘定科目について、次のルールに従って勘定科目タイプが変わります。 <ul style="list-style-type: none"> • ASSETからEXPENSEへ • EXPENSEからASSETへ • LIABILITYからREVENUEへ • REVENUEからLIABILITYへ • BALANCEからFLOWへ • FLOWからBALANCEへ 有効値: Y (勘定科目タイプが切り替る場合) または N (切り替らない場合)
Security Class	カスタム・ディメンション・データにアクセスできるユーザーを定義するセキュリティ・クラスの名前。 セキュリティ・アクセスは、データに対してのみ適用されます。 デフォルト: DEFAULTセキュリティ・クラス

列	説明
User Defined 1~3	シナリオに対するカスタム・テキスト（オプション）。
Aggr Weight	カスタム・ディメンションに対する集計の加重値。Doubleで渡されます。 デフォルト: 1
Description 2~10	シナリオの追加説明（オプション）。

EnumMembersList

列	説明
Member	メンバー・リストのメンバー
